

まごと じいじ

もりの
すいきん

しょうがく いちねんせい

れいわ よねん しがつ

きょうから しょうがく いちねんせいになったよ。
ピカピカのランドセルが うれしいな。
ひらがなを よめるようになったよ。
カタカナも よめるようになったよ。
としよしの ほんも すこしよめるようになったよ。
まいつき すこしずつ かいていきたいな。

れいわ よねん ごがつ

まいにち くらいニュースが おおいので パパに ゆめのある はなしを
よみたい といったら じいじに おねがいするよう いわれた。
じいじは にこにこして ひきうけてくれた。
はやく よみたいな。

はじめに

わかばが めばえるように しょうがつこうでの せいかつが はじまった
ね。

くらいニュースばかりなので ゆめのある はなしを かいてほしい とい
うから じいじが すこしずつ かいてあげよう。

こどもの くに

こどもの くにには こつきようが ないのだよ。
こつきようは おとなが つくったものだからね。

でも たくさん の ちいきに わかれているから たくさん の しゅるいの
ことばが あるのだよ。

いまは にほん という ちいきで にほんごで かいているのだよ。
にほんごは とても むずかしいので ほかの ちいきの こどもたちが
いっしょうけんめい しやべる にほんごを よくきいてあげようね。

おたがいに ことばを おしえあえば すぐに なかよくなれるよ。

れいわ よねん ろくがつ

じいじが こどもの くにを かいてくれた。

おとなが つくった こつきようは こどもの くにには ないのだから
たくさん の ちいきの こどもと ともたちに なりたいな。

バベルの　とう

おおむかしに　にんげんは　てんにも　とどくような　とうを　つくったんだよ。

ところが　かみさまの　いかりに　ふれて　ことばを　バラバラにされてしまったんだ。

いまでも　せかいの　ことばは　ななせん　いじょうの　しゅるいに　わかれているんだよ。

けんかばかりしていると　かみさまの　いかりに　ふれて　しゃべれなくなると　いけないから　きをつけようね。

れいわ　よねん　しちがつ

じいじが　バベルの　とうを　かいてくれた。

たくさんの　ちいきで　バラバラな　ことばを　しゃべっているんだね。

おなじ　ことばを　しゃべるようになったら　べんりだな。

エスペラントご

おなじ ことばを しゃべるように なったら べんりだとは よいところに きがついたね。

いまから ひゃくさんじゅうねんほど まえに エスペラントご という げんごが つくられたんだよ。

いろいろな げんごを しゃべる ひとたちが にばんめの げんごとして つかえるように つくられたんだよ。

そんなに おおくの ひとが つかっている わけでは なさそうだけどね。 じいじも にじゅうねんほど まえに エスペラントごの にゅうもんしよ を かって べんきょうしてみただけ もう すっかり わすれてしまった。 また べんきょうしてみる ことに したよ。

れいわ よねん はちがつ

じいじが エスペラントごを かいてくれた。

おなじ ことばを つかえるように つくったなんて すごいね。

じいじは にじゅうねんまえに かった にゅうもんしよを よんで ニコニコしているよ。

ぼくも たんさん べんきょうして いつのひか じいじに エスペラントごを おしえてもらいたいな。

ゆめ

ゆめのある はなしを かいてほしい ということで はじめたのだが ベ
んきょうの はなしになってしまったので ゆめについて かいてみようね。

ゆめは かなえるために みるものなのだよ。

「あきらめなければ ゆめは かなう」といった ひとがいるね。

たしかに かなえるために もくひょうを たてるといいね。

ゆっくりでいいから あきらめずに もくひょうに むかっていけば ゆめ
は かなうはずだよ。

れいわ よねん くがつ

じいじが ゆめについて かいてくれた。

かなえるためにみる ゆめ。

しょうらい なりたい しよくぎょう とかな。

まだ はつきりとは きめられないけど せんそうのない へいわな よの
なかになるような しごとが したいな。

へいわ

せんそうのない へいわな よのなかになるような しごとが したいと
いう りっぱな ゆめを もっているとは うれしいね。

こどもの くには こつきようが ないので なかよくしていれば へい
わになれるはずだよ。

そのまま おとなになれば へいわなままなのにね。

こどものくには ぼうりよくを つかわないように きめられるといいね。

れいわ よねん じゅういちがつ

じゅうがつは かくのを おやすみしてしまった。

じいじが へいわについて かいてくれた。

つつい かんがえすぎてしまった。

こどものくにて ぼうりよくを つかわないように きめるには いろいろ

な ちいきの こどもたちが はなしあわないと いけないね。

でも なんさいになったら こどものくにに すめなくなるのかな。

こつきようが できてしまうのは かなしいな。

おとなの くに

こどもの くにには ちゅうがっこうを そつぎょうするまで すめるのだよ。

そのあと すこしずつ おとなのくにに うつつていくのだよ。

おとなの くにには こつきょうが あるので わたしたちは にほん という くにに すんでいることになるね。

こどもの くにで なかよくなった ほかの ちいきの こどもたちは ほかの くにの おとなたちになつていくんだ。

ざんねんだが おとなたちで せんそうを したりするから こどもたちになかしい おもいを させてしまうね。

こころある おとなたちは ないているのだよ。

すまない すまないと ないているのだよ。

でも なんとかして へいわな せかいにしたい。

それが じいじの ゆめなのだよ。

れいわ ごねん いちがつ

じゅうにがつも かくのを おやすみしてしまった。

じいじが おとなの くにについて かいてくれた。

こどもの くにには ちゅうがっこうを そつぎょうするまで すめるらしい。

でも そのあとは おとなのくにに うつつていく。

ほかの ちいきの こどもは ほかのくにの おとなになつていく。

おとなが つくった こつきょうで わけられていく。

じいじは へいわな せかいにしたいと がんばつてくれている。

ぼくたちも ずっと なかよく くらせるように がんばろう。

ふろしき

ふろしきは ものを つつむために つかうのだよ。ビニールや ぬので
できているね。

じいじは おおきな ふろしきで せんそうしてくる くにを つつんでし
まえないかと かんがえているのだよ。

ぬのではなく せんそうしてくる くにの ことばで できた ふろしきな
のだよ。

ふろしきに へいわについて はなしてもらえば せんそうを やめてくれ
るかもしれないね。

そんな ふろしきを じいじは すこしずつ つくって いきたいのだよ。

らいげつから しょうがく にねんせいだね。

しょうがく いちねんで ならった かんじが つかえるよ。たのしみだね。

れいわ ごねん さんがつ

じいじが ふろしきについて かいてくれた。

せんそうしてくる くにを ふろしきで つつんでしまおうなんて じいじ
は かんがえているんだね。

おとなのくにで それができたら ぼくたちが おとなになっても へいわ
でいいね。

へいわになるために おとなが がんばってくれるのを おうえんしていこ
う。

らいげつから にねんせいになるよ。

いちねんせいで ならった かんじを つかえるようになるから うれしい
な。

小学二年生

はじめに

小学二年生になったね。おめでとう。
ひらが名やカタカナのほかに一年生でならった かん字 八十字をつかえる
ね。

じいじも小学校でならう かん字の本をかって べんきょうしながら かい
ているんだよ。たのしいね。

こん月は じゆうに かいてごらん。

れいわ五年四月

きょうから小学二年生になったよ。

ピカピカのランドセルの おとうとや いもうとが できて うれしいな。

ひらがなやカタカナのほかに 一年生でならった かん字 八十字も 使え
るようになったよ。

としよしの本も よみつづけていこう。

みこし

あちこち まつりで にぎわっているね。

大ぜいで みこしを かついでいる。

おmoi みこしも みんなで かつげば たのしそうだね。

みんなで 力をあわせて なにか出きるといいね。

れいわ五年七月

じいじが みこしを かいてくれた。

じいじも ことしの まつりで みこしを かついで たのしそうだった。

ぼくも おとなになったら みこしを かつぎたいな。

なつは 花火大かいや ぼんおどりもあって 大ぜいで たのしいな。

なが生き

さいきん じいじは なが生きしたいと おもうようになった。
小学二年生よりも 六十年ながく 生きているのだけどね。
もつと いろんなことを かきたいのだよ。

もつと きれいに かきたいのだよ。
ながいきすれば たくさんの本を よむことが出きるからね。
きれいに かかれた文を 見つけることも出きるからね。

れいわ五年九月

じいじが なが生きについて かいてくれた。

じいじは ぼくより 六十年ながく 生きているのだけど まだまだ生きて
たくさん かきたいようだ。

ぼくも じいじが かいた 本を たくさん よみたいから じいじにな
が生きしてもらいたいな。

ぼくが 六十さいになるころ じいじは 百二十さいになるよ。

じいじは それよりも なが生きしたいようだ。

ぼくも なが生きしながら じいじを おいかけよう。

日本ご

日本人は日本ご という おなじ げんごを つかっているね。

これは とても べんりなことで おかげで日本人どうしの かいわが つ

うやくなしで わかりあえるんだ。

ただし べんりなものだから ついつい くだけた いいかたになってしま

うようだね。

じいじは もともとあった 日本ごの うつくしい ひょうげんを 学んで

みたくなった。

いっしょに うつくしい ひょうげんを 見つけられるといいね。

れいわ五年十一月

じいじが 日本ごについて かいてくれた。

ともだちとも じゆうに はなしが 出るのは おなじ日本ごを つかっ

ているからなのだね。

ときどき ともだちと けんかしそうになると ついつい らんぼうな

いかたに なってしまう。 気をつけよう。

じいじと いっしょになって うつくしい いいかたを 見つけていきたい

な。

やく草

びよう気を なおすことが出来る草を やく草というのだよ。
とても やくに立つ草だね。

なるべく おおくの人が つかえるように そだてているようだね。

じいじの こう校の どうきゆう生で やく学を べんきようするため
大学に すすんだ人がいたが どうしているかな。

やく草を見つける人もいれば そだてる人もいる。
草を見るのが たのしくなるといいね。

れいわ六年三月

じいじが やく草について かいてくれた。

気をつけて 草を見るようになったけれど やく草を見つけれなかった。

でも さむい ふゆも かぜが ふきつける中 たえている草は たくまし
いな。

ぼくも たくましく 生きたいな。

おわりに

やく草の はなしは むずかしかったようだね。

四月からは 小学三年生だね。

二年生でならった かん字 百六十字も つかえるようになり たのしみだ
ね。

小学三年生

はじめに

小学三年生になったね。おめでとう。
ひらが名やカタカナのほかに一年生でならった かん字 八十字と 二年生
でならった かん字 百六十字をつかえるね。
ゆめの話を じいじが書くのを まっていたかもしれないが 自ゆうに 書
いてごらん。

れいわ六年五月三十日

四月から小学三年生になった。

じいじが ゆめの話を書いてくれるのを まっていたら 自ゆうに 書くよ
うにとのことだった。

じつは 自ゆうに書くのは とくいではない。

じいじが書いてくれる ゆめの話を読んで考えるほうが楽しい。
また ゆめの話を じいじに書いてもらいたい。

自ゆう

自ゆうに書いてごらん と言われて 戸まどったようだね。
自分でテーマを見つけないといけないからね。

でも 自分の思う通りに出来るということは す晴らしいことだね。

ゆめが かなうかもしれないね。

今でこそ 自ゆうになっっているけど 自ゆうになるために 大ぜいの人が
ど力してきたのだよ。

自ゆうに出来ることを楽しんで のびのびするといいね。

れいわ六年八月十六日

じいじが 自ゆうについて書いてくれた。

生まれてきた時から自ゆうに生活しているから あんぜんと同じで 空気の
ように あって当たり前としか考えていなかった。

大ぜいの人のおかげで 自由でいられるのだね。

いろいろ考えると むずかしいけど 書いてみると すっきりするね。
ますます自ゆうになった気がする。

オリンピック

今年はフランスのパリで四年に一どのオリンピックが行われたね。

三年前の東京オリンピックは かんきやくが いないまま 行われたが、今年 は かんきやくが おうえんして もり上がっていたね。

六十年前の十月十日、東京オリンピックの かい会しきが行われたんだよ。じいじは小学三年生だった。

毎日テレビで おうえんしたものだった。

二十年前に、じいじは ギリシャのアテネに行き オリンピックを見てきた。じっさいの きょうぎは 見ごたえあった。

今年はフランスでオリンピックを見たかったのだが、ホテルだいたかが 高すぎるので テレビで見ることにした。

しょう来 どこかのオリンピックを 生で見られるといいね。

れいわ七年一月五日

じいじが オリンピックについて書いてくれた。

へんじを書かないうちに 年が明けてしまった。

原こうりょうとして じいじが たくさん お年玉をくれた。

ぼくも しょう来 どこかのオリンピックを 生で見たいな。

また日本でオリンピックが行われることになったら かんきやくが おうえんできるといいな。

その時は もっと へいわに なっていると いいな。

マラソン

オリンピックきょうぎの中で じいじはマラソンが一番すきだ。
アテネでオリンピックを見た つぎの年に、じいじはアテネマラソンを走っ
た。

マラソンという名前はギリシャのマラトンという地名から来ている。
二千五百年前にマラトンの たたかいで かったという知らせをアテネまで
走って つたえたのだそうだ。
マラトンからアテネまで四十二キロ 走ってみると楽しかった。
フルマラソン走るのは じいじの ゆめだったので なおさら うれしかっ
た。
どこかで走られるといいね。

れいわ七年三月三十一日

じいじが マラソンについて書いてくれた。
さすがに マラソンが すきなだけあって 今でも じいじが ジョギング
しているのは すごいと思う。

どうしたら マラソンが 好きになれるのかな。
こんど じいじに教えてもらおう。
きつと じいじは ニコニコして教えてくれるだろう。